

“わたしのまち”

善福寺池（善福寺公園）の様子。善福寺川の始点。
みどりが豊かで区民の憩いの場となっている

杉並区

川沿いのおすすめスポットを巡って

区民に親しまれる善福寺川

杉並区民にとって善福寺川は、身近にある川として多くの人に親しまれています。都立善福寺公園を起点に、川沿いには豊かな自然や公園、庭園があり、地域の人たちの憩いの場となるだけでなく、区を訪れる人たちにとっても川沿いを巡る楽しさにあふれています。今回はおすすめスポットなど地域に溶け込む善福寺川の姿を紹介します。

区民にとって身近な善福寺川

杉並区内には善福寺川を始め、神田川、妙正寺川と3つの河川が流れています。中でも善福寺川の源となる善福寺池から中野区区境となる和田一丁目の神田川合流地点までの全長10・5キロメートル全てが杉並区内を流れる一級河川です。

区内の北西から南東に向かって流れる川沿いには公園などの緑や庭園など自然を感じさせる場所や憩いの場があり、地域の人たちが川沿いの遊歩道をジョギングや散歩する姿が多く見られるなど、区民にとって大変身近に感じられる存在となっています。

善福寺公園にある善福寺池は上の池、下の池の2つの池に分かれており、上

の池には源頼朝が命名したとされる「遅の井」があり、善福寺川の水源のひとつになっていました。

「遅の井」の由来

善福寺池の湧水のひとつ「遅の井」は源頼朝に命名されたと言い伝えられている。

約800年前の文治5年（1189年）、頼朝が奥州征伐に向かう途中に、飲料水を求めるためにこの地に土を掘った。

しかし、折からの干ばつでなかなか水が出なかったため、自ら弓の「はず」（弓の先）で土を7か所掘ると、しばらくしてその7か所に水が湧き出たのが起源とされている。水の出を「今や遅し」と待ったところから「遅の井」と命名されたと言われている

散策で見つける川沿いの豊かな自然

みどりを感じる公園や緑地

下流に向かって善福寺川を進んでいくと、途中に善福寺川緑地や和田堀公園が広がります。川沿いに带状に続くこの2つの公園は全長4・2kmにもなり、それぞれが整備された遊歩道でつながっています。水辺を感じたり、木立の中を歩いて自然の豊かさを感じるのに最適な場所だと言えます。

これからは桜を中心に春の季節を感じられる植物で目白押しです。特に善福寺川緑地は春先に川沿いの桜が満開になります。樹齢が約30年から40年の勢いのある桜で見事な花をつけるため、



昨年4月に善福寺川に架かる武蔵野橋付近に親水施設が開設された。川のせせらぎの音を聞きながら、春一色の景色を楽しむ

毎年お花見スポットとしてにぎわいを見せるほか、サツキやツツジなども咲きそろっていきます。また秋口にはイチョウやモミジの色づく様子が見られるなど、訪れる人を十分に楽しませてくれます。

生物観察で自然環境を感じる

和田堀公園は、子どもたちの遊び場だけではなく、豊かな自然林がバードサンクチュアリーになっており、さまざまな野鳥を観察することが可能です。園内にある和田堀池では都心で珍しいカワセミの姿も見られます。

こうした環境を生かした地域イベントも行われています。近隣の区立大宮児童館と区立成田児童館の合同行事で、「セミの羽化 観察会」を行ったり、平成20年に始まり今年で7回目となった小学生を対象とした「水鳥一斉調査」を1月に実施するなど、善福寺川に親しみが持てるだけでなく、善福寺公園や善福寺川緑地、和田堀公園など自然環境の大切さを学ぶ機会があることで、地元にある河川への愛着も育まれていきそうです。

建造物から歴史を感じる

地域の成り立ちや生活・文化を知る

善福寺川は、川沿いの自然を感じながらゆつくり歩くだけでなく、自転車などを利用して、エリアを決めて近隣の施設に立ち寄るような、まちの雰囲気を感じる散策も楽しめます。

例えば和田堀公園内の高台には弥生

歴史的建造物を知る

善福寺川沿いには歴史的建造物の代

時代の族長の墓とみられる大宮遺跡が、さらに公園外の近隣にも松ノ木遺跡があるなど、善福寺川流域は古代遺跡の多いところでもあります。地域の散策とともに郷土博物館で川沿いの歴史的な背景を知る楽しみにもつながります。



角川庭園・幻戯山房～すざなみ詩歌館～。国の登録有形文化財に登録されている



季節ごとにかかるた取り大会やお月見などのイベントも開催されている(画像はお月見イベントの様子)



近衛文麿元首相の旧邸宅の萩外荘 (てきがいそう)



— 善福寺川の四季の移ろい —



すぎなみ春らんまん祭り

善福寺川鯉のぼりの川渡し

セミの羽化 観察会

秋の紅葉の様子

小学生の親子を対象とした「水鳥一斉調査」

表的なものとして荻外荘（てきがいそう）と角川庭園・幻戯山房くすぎなみ詩歌館があります。

松溪橋の近隣にある角川庭園・幻戯山房くすぎなみ詩歌館は、俳人で角川書店創設者の角川源義（げんよし）氏の邸宅を、遺族から寄贈を受けたものに改修しているもので平成21年11月に国の登録有形文化財に登録されました。

庭園は公園として公開されておりウメやサツキ、サルスベリなど四季折々の草木や花が楽しめる日本庭園となっています。



川と一緒に歩む、さまざまなイベント

このように、川沿いには訪れる人が思い思いに楽しめる場所がいろいろあります。また、地域の人たちも身近な存在である川に対して、さまざまなイベントを行っています。

敷地の中を川が流れている井荻小学校では、川の美化を地域の住民に広げることが目的に善福寺川の美化に関するオリジナル手ぬぐいの販売を行っており、毎年人気を博しています。4月下旬頃から5月にかけて、地元

邸宅は加倉井昭夫氏が設計した近代数奇屋造りの建物で、源義氏にちなんだ展示室や句会などを催せる詩歌室や茶室の貸室として利用されています。

荻外荘（てきがいそう）は近衛文麿元首相の旧邸宅で日本の政治史にとつて、重要な会談が行われた場所です。昭和初期の邸宅建築が良好な状態で残されている建物は珍しく、歴史的意義があることから、地域の文化遺産としてまちづくりを生かす取組が進められています。

こうした施設を見学し歴史を感じることも、楽しみのひとつです。

の堀ノ内一・二丁目町会では「善福寺川鯉のぼりの川渡し」を行っています。平成11年より行っているこのイベントでは善福寺川にロープを渡して鯉のぼりを上げていくものです。大小あわせて約60匹の鯉のぼりが川の上を泳ぐ姿が見られます。

善福寺川を中心としたコースの「杉並チャリテイー・ウォーク」は「未来をつなぐ子どもたちのために」をテーマに、500円玉1枚で参加できる楽

その他の見どころ①

「杉並アニメーションミュージアム」では、アニメのしくみやさまざまな企画展が開催され、全国からアニメファンが来場しているアニメの殿堂となっています。また、アニメファンでなくても懐かしい資料があり十分に楽しめます。

その他の見どころ②

杉並区立児童交通公園は、子どもたちが自転車の練習や交通ルールを学ぶためのコースが設けられています。地域の人にとっては、この公園でコースを見守る職員に助けられながら自転車を乗るようになったという思い出を持つ人も多いためです。東京駅を模した三角屋根の建物が目印です。

杉並区立井荻小学校の5年生は、学校の敷地の中を流れる善福寺川をきれいな川にしたいという思いを地域の人に伝えるため、毎年川の美化を呼びかけるオリジナル手ぬぐいの販売を行っている。今年は2月18日に実施。自然があふれるきれいな川への熱い気持ち伝わります。



しいボランティアイベントで、地域からも多くの参加者がありました。さまざまなイベントが行われ、区民や川を訪れる人が参加することで川への愛着はますます深まっていきます。地域に溶け込み愛される善福寺川の姿は、杉並区の大きな魅力と言えるでしょう。